

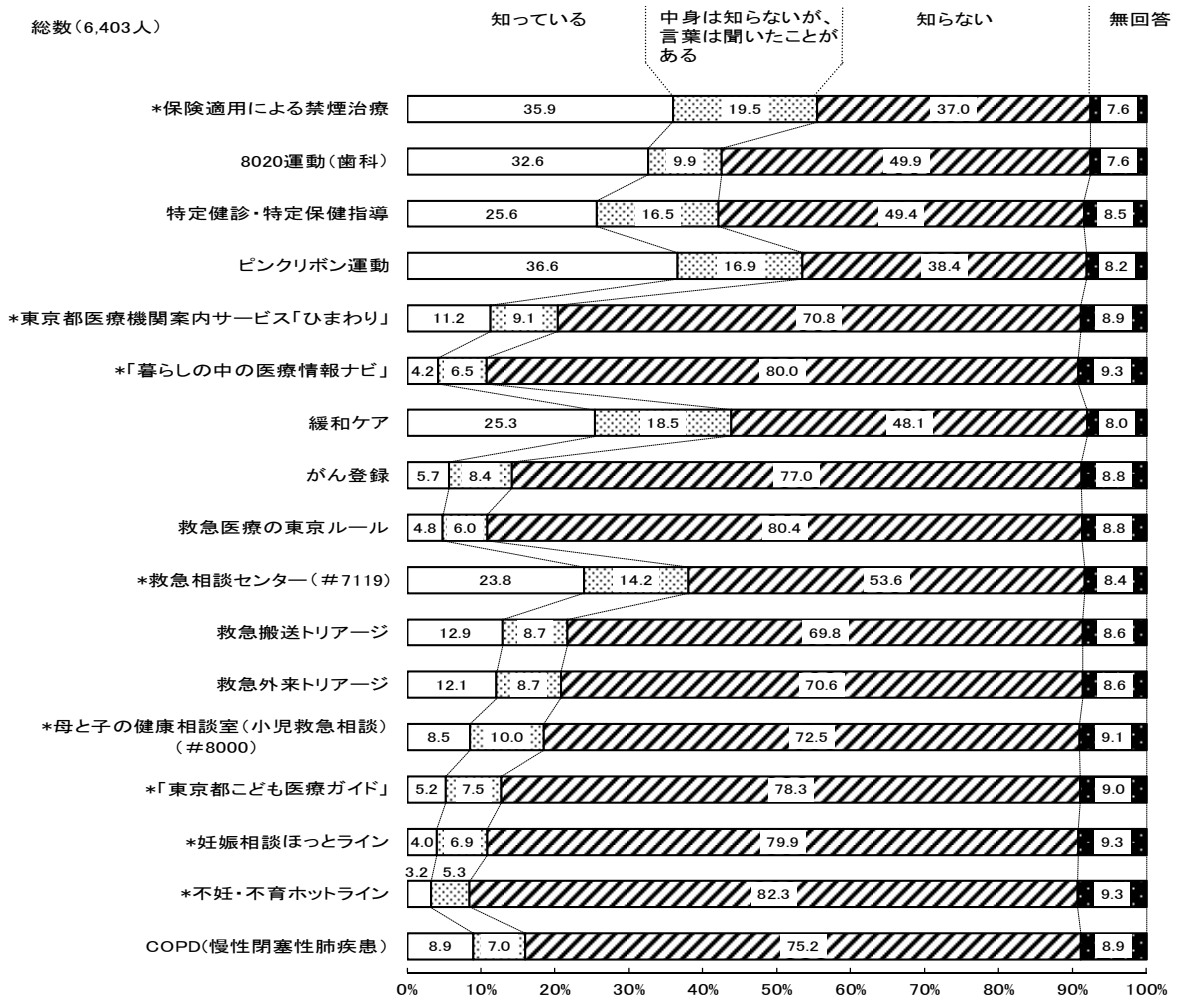
第11章 保健医療関連施策等の認知度

1 保健医療関連施策等の認知度

この調査に回答する以前に、以下の項目を知っていたかどうか聞いたところ、「知っている」割合で最も高かったのは、「ピンクリボン運動」で36.6%、次いで「保険適用による禁煙治療」35.9%、「8020運動（歯科）」32.6%、「特定健診・特定保健指導」25.6%と続いている。（図Ⅱ-11-1）

問 このアンケートに答えていただく前から、以下の項目について、内容をご存知ですか。

図Ⅱ-11-1 保健医療関連施策等の認知度



注）*を付した施策について、利用経験の有無を聞いたところ、「利用経験あり」の割合は以下のとおりであった。

- 〔保険適用による禁煙治療〕：全体の1.3%
- 〔東京都医療機関案内サービス「ひまわり」〕：全体の3.5%
- 〔暮らしの中の医療情報ナビ〕：全体の0.3%
- 〔救急相談センター（#7119）〕：全体の4.5%
- 〔母と子の健康相談室（小児救急相談）（#8000）〕：全体の1.0%
- 〔東京都子ども医療ガイド〕：全体の0.4%
- 〔妊娠相談ほっとライン〕：全体の0.1%
- 〔不妊・不育ホットライン〕：-%

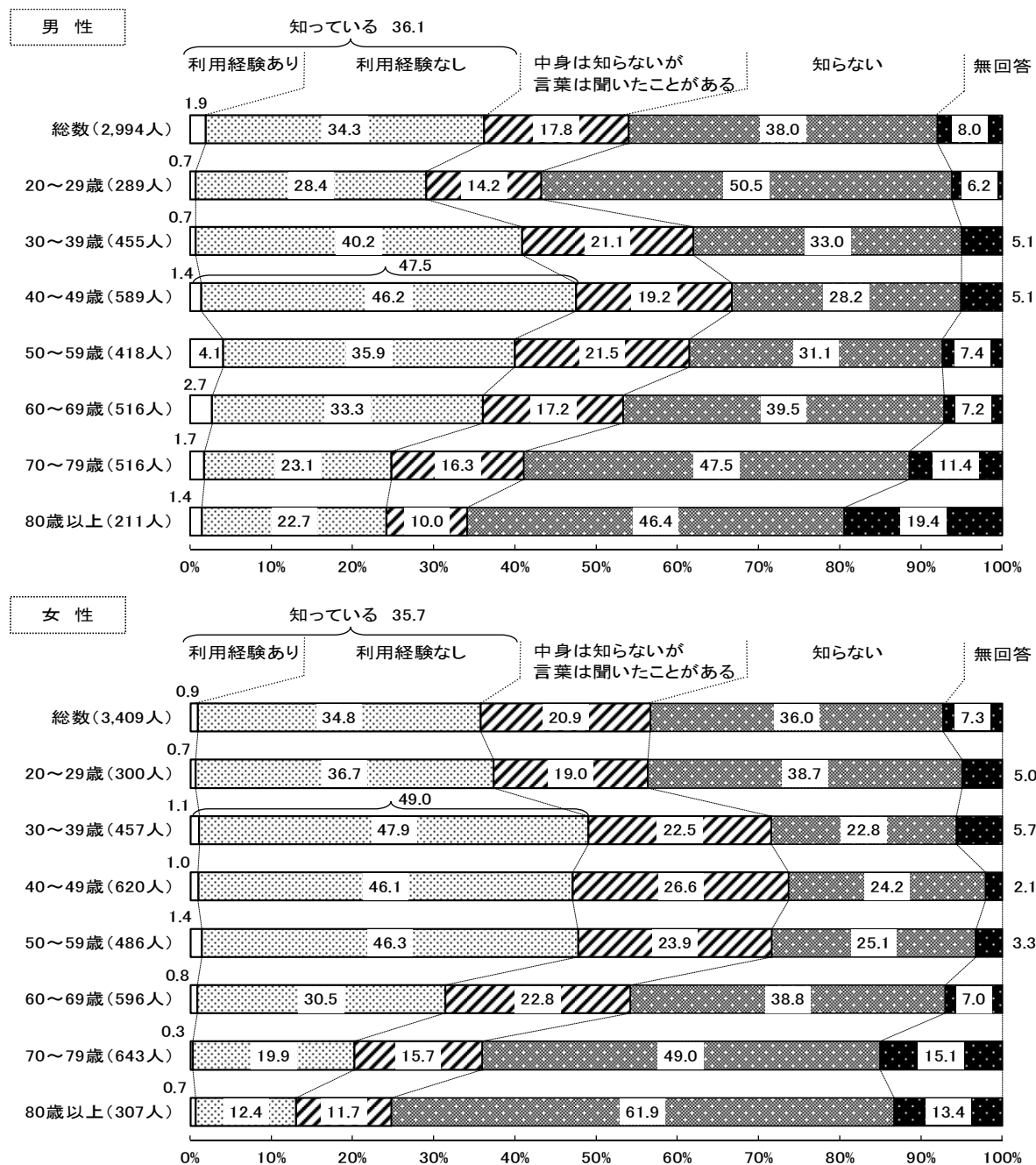
(1) 保険適用による禁煙治療の認知度—性・年齢階級別

保険適用による禁煙治療を「知っている」割合は、男性は40代、女性は30代が最も高い

保険適用による禁煙治療の認知度について、性・年齢階級別にみると、「利用経験あり」と「利用経験なし」を合わせた「知っている」の割合が最も高いのは、男性は40代で47.5%、女性は30代で49.0%となっている。

「利用経験あり」の割合が最も高いのは50代男性で、4.1%であった。(図Ⅱ-11-2)

図Ⅱ-11-2 保険適用による禁煙治療の認知度—性・年齢階級別



注) 統計比率を合算した比率(36.1%、47.5%)は、個々の数値を合算して求めているため、比率の内訳の合計とは一致しない。

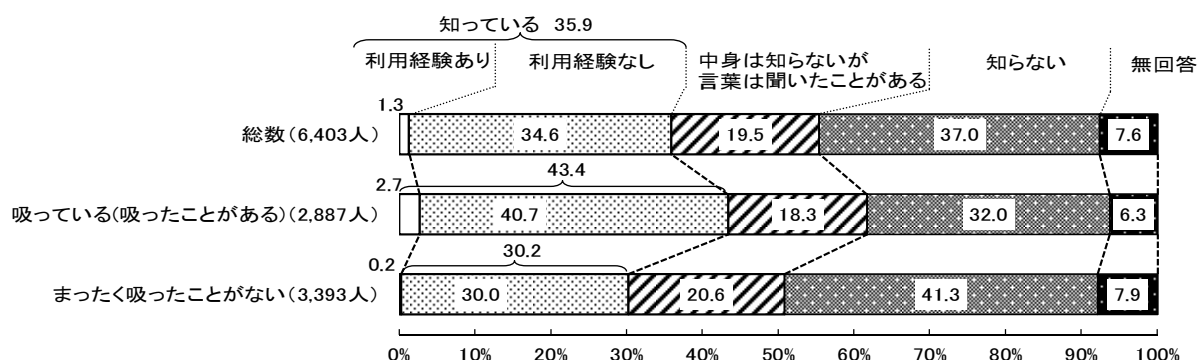
(2) 保険適用による禁煙治療の認知度－喫煙の有無別

保険適用による禁煙治療を「知っている」割合は、吸っている（吸ったことがある）人は4割

保険適用による禁煙治療の認知度について、喫煙の有無別にみると、「知っている」の割合が吸っている（吸ったことがある）人43.4%で、まったく吸ったことがない人30.2%と、吸っている（吸ったことがある）人の方が13.2ポイント高くなっている。

吸っている（吸ったことがある）人で「利用経験あり」の割合は、まったく吸ったことがない人よりも高く、2.7%となっている。（図Ⅱ-11-3）

図Ⅱ-11-3 保険適用による禁煙治療の認知度－喫煙の有無別



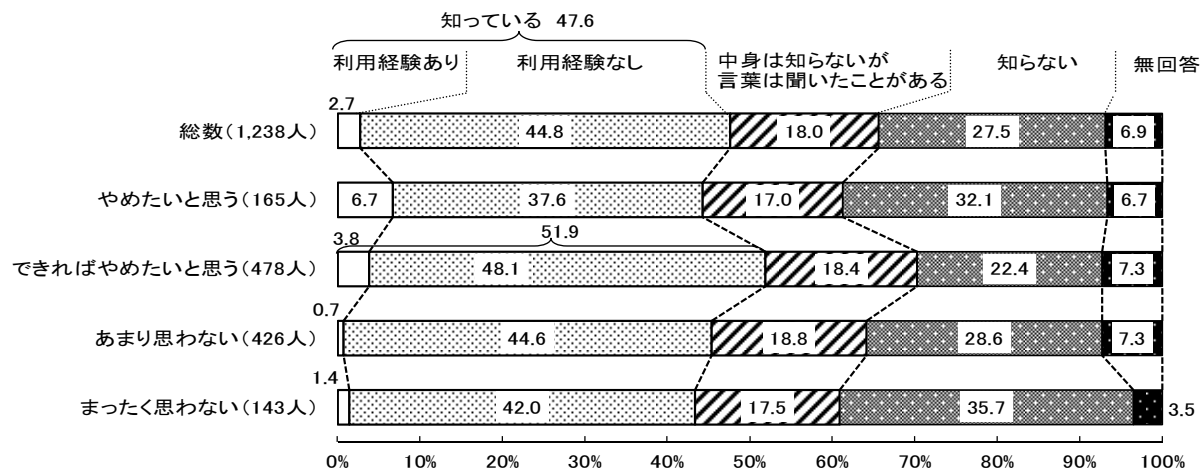
(3) 保険適用による禁煙治療の認知度－禁煙意欲別

保険適用による禁煙治療を「知っている」割合は、できればたばこをやめたいと思う人が最も高い

保険適用による禁煙治療の認知度について、禁煙意欲別にみると、「知っている」の割合が最も高いのは、できればたばこをやめたいと思う人で、51.9%となっている。

「利用経験あり」の割合が最も高いのは、やめたいと思う人で6.7%であった。（図Ⅱ-11-4）

図Ⅱ-11-4 保険適用による禁煙治療の認知度－禁煙意欲別



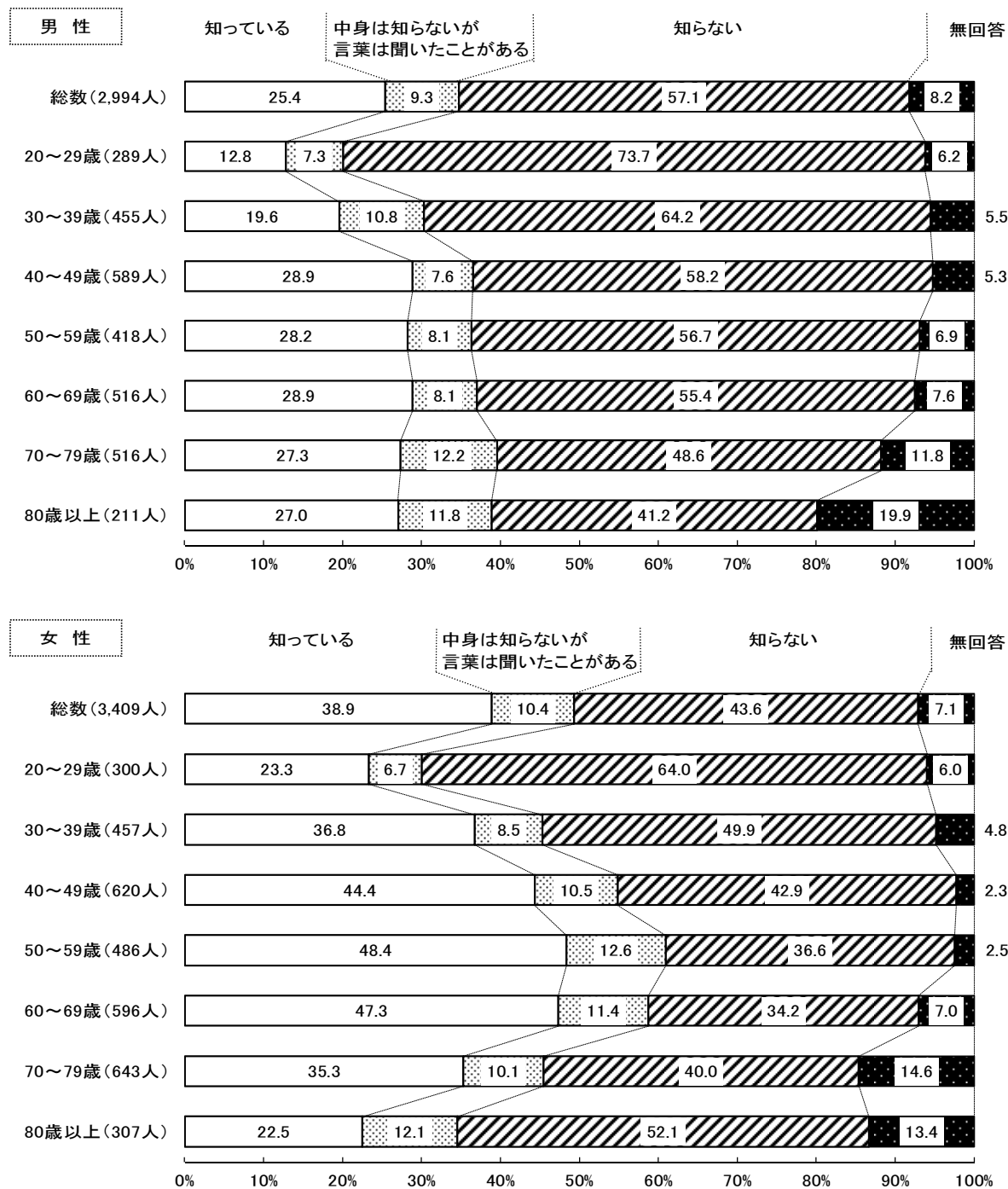
注) 統計比率を合算した比率(47.6%)は、個々の数値を合算して求めているため、比率の内訳の合計とは一致しない。

(4) 8020 運動（歯科）の認知度一性・年齢階級別

8020 運動を「知っている」割合は、男性より女性の方が高い

8020 運動(歯科)の認知度について、性・年齢階級別にみると、「知っている」の割合は、男性 25.4%、女性 38.9%と、女性の方が 13.5 ポイント高くなっている。特に女性の 40 代～60 代は、4 割を超えている。(図Ⅱ-11-5)

図Ⅱ-11-5 8020 運動（歯科）の認知度一性・年齢階級別

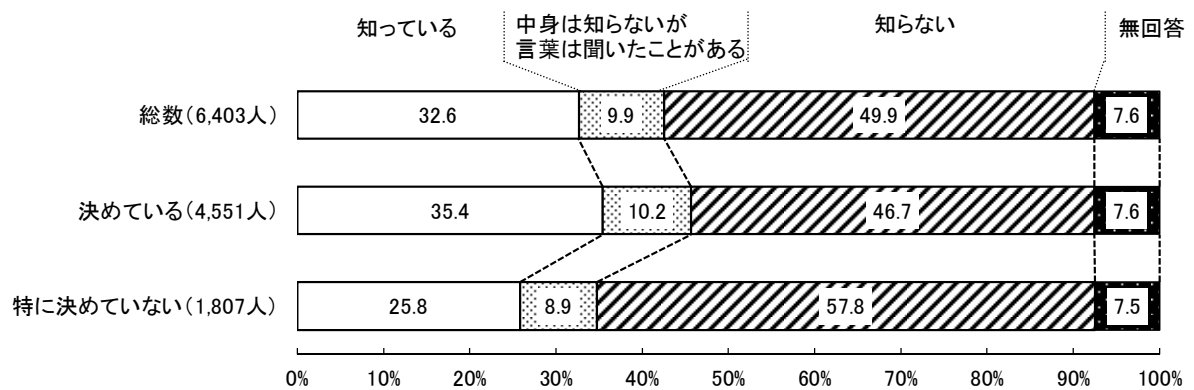


(5) 8020 運動（歯科）の認知度—かかりつけ歯科医の有無別

8020 運動を「知っている」割合は、かかりつけ歯科医を決めていない人より、決めている人の方が高い

8020 運動（歯科）の認知度について、かかりつけ歯科医の有無別にみると、「知っている」の割合は、かかりつけ歯科医を決めている人は 35.4%、特に決めていない人は 25.8%と、決めている人の方が 9.6 ポイント高くなっている。（図Ⅱ-11-6）

図Ⅱ-11-6 8020 運動（歯科）の認知度—かかりつけ歯科医の有無別

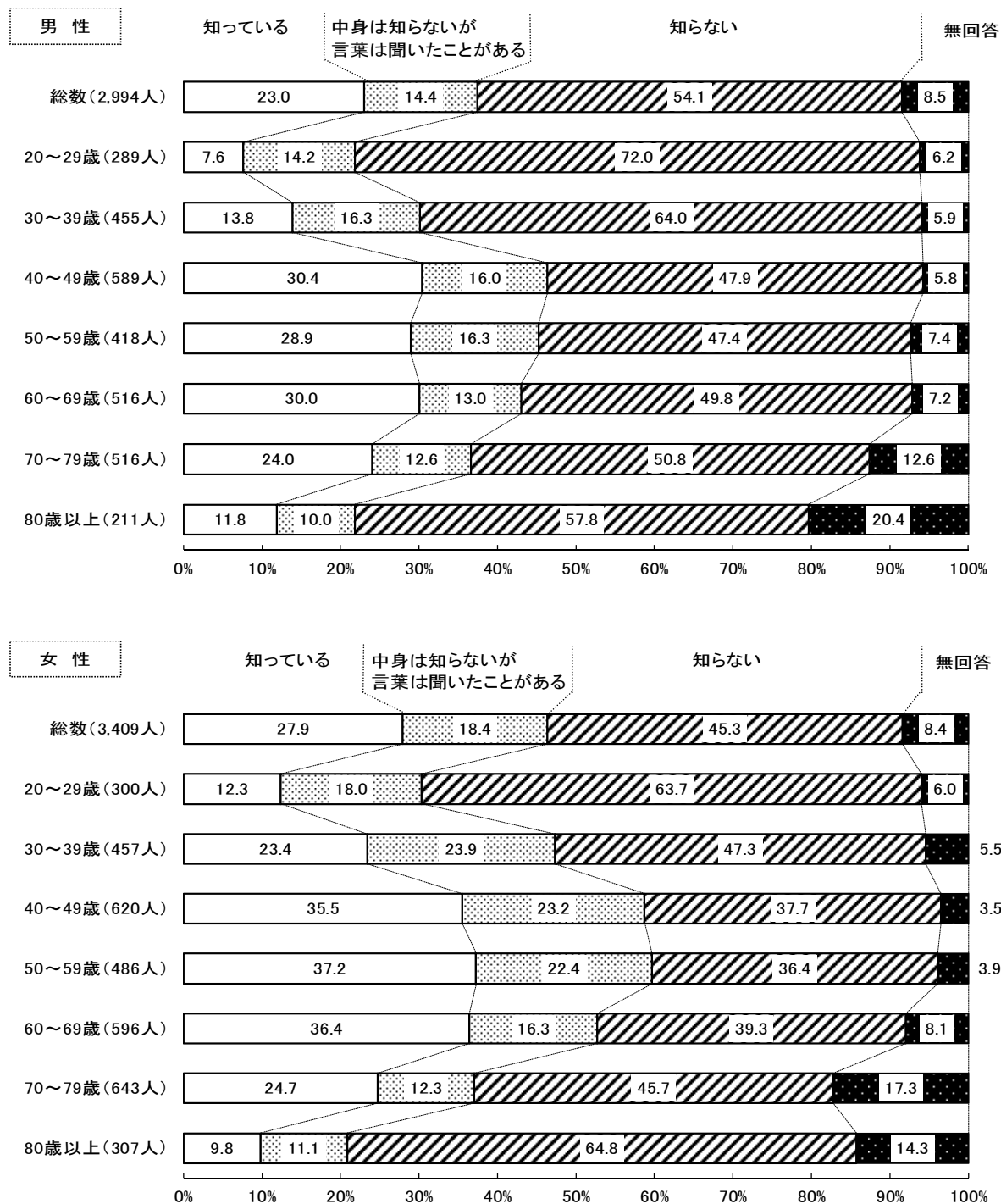


(6) 特定健診・特定保健指導の認知度一性・年齢階級別

特定健診・保健指導を「知っている」割合は、男性より女性の方が高い

特定健診・特定保健指導の認知度について、性・年齢階級別にみると、「知っている」の割合は、男性 23.0%、女性 27.9%と、女性の方が 4.9 ポイント高くなっている。特に、40代～60代の女性は、3割を超えている。(図Ⅱ-11-7)

図Ⅱ-11-7 特定健診・特定保健指導の認知度一性・年齢階級別

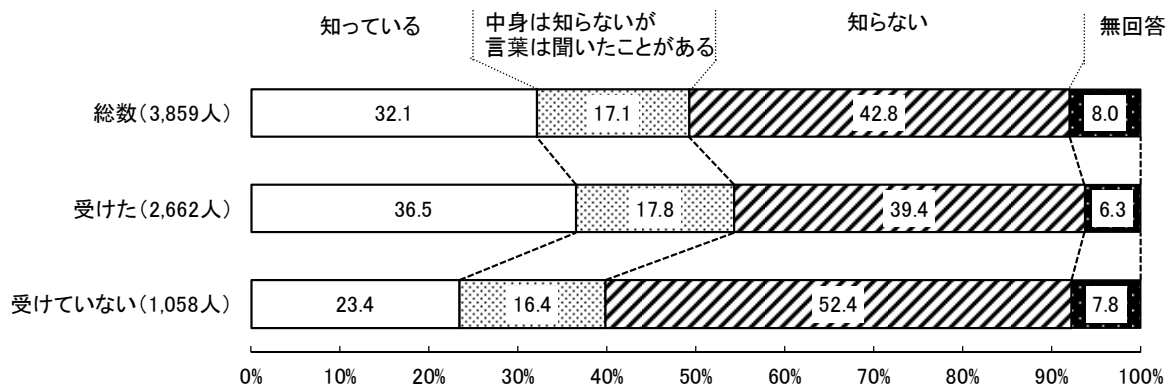


(7) 特定健診・特定保健指導の認知度—過去1年間の健診・人間ドックの受診の有無別

特定健診・保健指導を「知っている」割合は、健診・人間ドック受診者は3割を超えている

特定健診・特定保健指導の認知度について、過去1年間の健診・人間ドックの受診の有無別にみると、健診・人間ドックを受けた人は、「知っている」割合が36.5%であるのに対し、受けていない人は23.4%と、受けた人の方が13.1ポイント高くなっている。(図Ⅱ-11-8)

図Ⅱ-11-8 特定健診・特定保健指導の認知度
—過去1年間の健診・人間ドックの受診の有無別



(8) ピンクリボン運動の認知度－性・年齢階級別

ピンクリボン運動を「知っている」割合は、男性2割、女性約5割

ピンクリボン運動の認知度について、性・年齢階級別にみると、「知っている」の割合は、男性は23.3%、女性は48.2%で、女性は約5割であった。特に女性の40代、50代は、「知っている」割合が高くなっている。(図Ⅱ-11-9)

図Ⅱ-11-9 ピンクリボン運動の認知度－性・年齢階級別

